

# 農園便り 9

月号(116号)

文責 筒口 典康

(2022/09/01)

115号で報告しましたが、除草剤の恐ろしさを痛く感じている毎日であります。

Mさんの話によりますと、公園付属のドッグランのなどで薬を撒かれていたそんな原で、飼い犬を遊ばすと、「ミトコンドリア病」になって死んでしまう。

ヨタル。痙攣する。筋肉痛、関節痛、視力低下、神経がやられてしまう。細胞内器官のミトコンドリアが壊れてしまうのですから助けようもない。気づいたときはもう遅い。いわゆる、難病の「バセドウ氏病」になる。

蓮根の池に入れていたメダカが、金魚が、除草剤で死んでしまう。クワイも姫カワホネも、セリも、クレソンも死んでしまう。強靱な雑草たちも、除草剤にはたまったものではありません。かなり汚れた水にも育つ「蚊」も死んでしまうのである。

原の草が黄色く枯れあがる。一面白化する。「葉緑体が」破壊される。「死」んでしまうのですよ。「癌」になるどころではありません。「細胞内の器官」が溶解する。崩壊する。

こんなものが園芸店やコンビニに置かれている。100円ショップでも売られていると言う。農林水産省は何故放置しているのでしょうか？農薬そのものが毒薬・毒剤なのであります。



サトイモの南側にMさんにいただいたキャベツ苗を植える。里芋の芽生えは遅いので、まだ除草剤は撒かれていない。→葉が垂れる。何か調子が悪い。2段目、3枚とも。液剤の除草剤が撒かれる。散布面に照りがあるのは、展着剤も使っているようだ。枯れ始める。キャベツも枯れ始める。

次の図1段目、薬剤による葉緑素死滅斑。中央、サトイモ全滅。キャベツ全滅。



松田さんからいただいたサトイモで植え直す。サトイモの復活。嬉しい。除草剤の除染に多量の水を撒く。区民農園利用者の方々には大層の迷惑をかけている。サトイモ畝の除草剤散布回数は他の畝よりも少ないようだ。

地球温暖化が進み、私たちの身の回りの生態が変わってまいりました。 戦前戦後の東京では柑橘類は、「柚子」「夏蜜柑」がやっと出来る状態でした。

昭和 20 年、銭湯の帰りに濡れ手拭いを振り回すと、棍棒状に凍りまして、ビックリ。早朝西武線に乗ると窓ガラスに霜模様。ダイヤガラス模様。「関」の石神井川、「井荻」「鷺宮」の妙正寺川、「高田馬場」の神田川。凍った川面から湯気が立ち昇る。とにかく寒かった。善福寺公園の池が全面凍結の事もありました。道を歩けば「バリバリ」音。子供たちが氷の塊を蹴飛ばして登校してくる。実に寒かった。

それが今では、「キンカン」「分担」「グレープフルーツ」「スプリングアーリー」(ネーブル系)、「早生蜜柑」「甘夏」「柚子」が実ります。低温障害がありません。とにかく所狭しと植えてあります。実ります。

これからは、柑橘類。松や木犀のような庭木を止めて、果樹を植えましょう。ビワ、ヤマモモ、も良いと思います。いわゆる暖帯照葉樹。更に、亜熱帯の果物、レイシも、グワバ等のフトモモ科の小果樹も栽培可能になってくると思います。ビニールハウスを常設できれば冬季に加温して、熱帯果樹も可能でしょう。テラスが広ければ、「鉢」で作るのも楽しい。

鉢栽培では、熟期が早くなる。受粉しやすいので確実に実がつく。糖度が上がる。自動給水の鉢の工夫も楽しめる。BH101を使ってみるか。用土は弱酸性が基本。原産地の生育状態に合わせる事がコツであろう。

ブルーベリーなら「酸性土」で→灰や石灰は**毒**。「小鉢」→「中鉢」→「大鉢」の順で作ります。これらの果樹類で、一年中楽しむことが出来ます。

完熟の果実をそのままいただく。ジャムやジュースに加工する。これは楽しみ。「柚子」は加工材料としては最高です。ユズの熟期が 12 年。これが

難点ですね。「本柚子」は時間がかかる。 接ぎ木苗で12年、実生で18年～20年。 実生の本柚子は美味しい。



1段目、サツマイモの苗にH氏は、ご丁寧に顆粒状のクサノンEX除草剤を撒く。(6/16撮影) 中央は、オクラ。 右は、食用菊。 下段左から、モロヘイヤとオクラ。中央は、キュウリ。 右端は、カボチャ。 畝の上面を削り取る(土を除く)。 茶碗に盛ったご飯にゴマ塩を振ったような状態である。 これは、立派な犯罪である。 練馬区の農園(都市農業課)の管理支援に感謝。

昨日(8/19)H氏に、『オマエまだやっているのか!』と突然、罵声を浴びせ掛けられる。夕刻6時頃の出来事である。 懲りないやつだ。 恐ろしい方だ。

そう言えば、散布している時に娘さんのTさんが『先生のとこまだ撒いていないよ!』と言っているのを聞いた方がおられるようだ。 だとすると、父娘ともども恐ろしい。 狂気の沙汰である。 とにかく恐ろしい。

南門のすぐ脇を耕作されている方にいただいた苗から育ったキュウリ、元気に育ち、収穫。 私共のような小家族では日に2本も採れば十分であります。 このところ10本程いただいております。 感謝。 汚染から復活した所に植えました。 久しぶりの収穫である。 3～8月にかけて三回、収穫があった。

ミミズや甲虫の幼虫等が姿を現せば、畝は復活したと考えます。 でも、3月の土の様子にはまだまだなっていない。 昨年までの2年間、松田さんが有機栽培でやられていたので豊かな土になっていた。 有効な菌や細菌も復活してもらわないとね。 ツルナ×ハウレン草(新品種)。 オカワカメ(雲南百薬)収穫・・・ 余り美味しくはないけれど・・・。 とにかく使い回しの畑が復活してきた。

1回目の秋冬野菜の混播を試みましたが、発芽が悪い。 生育も悪い。 薬害が、まだまだ抜けていないようだ。

元「かぐや姫社」の二瓶氏から『汚染された畑の洗浄に効く製品を開発しているから使ってみて!』と。 嬉しい話です。 竹チップボカシ、4袋。 注文する。



ユリ、咲きました



ユリのの自宅の植え込み



同時に植えた同じ品 ↑ 種 2 本 1 本は枯れ、この写真のユリは**委縮** カマキリ

この「農園便り」はGA東京会員の活動で検索すると、また、「筒口典康」で見ることが出来ます。GAの事務局の矢部さんの手で処理したものです。写真の日には、スマホの検索画面の拡大で見ることが出来ます。

いわれのない嫌がらせに、色々と苦心するのである。 「除草剤散布後」は、新しいテーマである。

土を作る。生命の一杯な土を作る。地球の大循環の「土を育てる」。 実に、宗教的な活動だ。 有機無農薬で、1年目から野菜を収穫しよう。

ドクダミの可愛い花、ユリも咲いてきました。追いかけるようにタンジー・マジイの黄色い小花の集合花(キク科)が、水引草の花も。ネコジャラシの穂が可愛い。飼い猫の「チビ・ツー」。遊んでやったっけ。枕元で腕の中で頬寄せながら、死んでしまったヨ。

GA東京幹事会で、『ハリネズミをお飼いなさいけ』と教えていただく。後期高齢、余命の短い者向けなのでしょう。モルモットにしましょうか。そうそう、ウサギ。この者たちの「糞」「尿」菜園に良いらしい。ウサギはあまり甘えてこないからナ～。「糞」は、肥料。「尿」は、害虫駆除。

以前GA東京の会長を2期ほどやられた、外山たら氏にお電話をいただきました。NHK「やさいの時間」で連載記事を書かれていましたが、このところ掲載されていないので心配しておりました。軽い脳梗塞とのことでした。活動を縮小中との事で、お元気な声で、テキパキと…。少しも以前と変わりありません。

実は、タラ先生は、私のハーブの師匠であります。タンジー・マジイ、斑入りドクダミ、は外山さんのハーブ畑でいただいたものであります。「草香もえ」先生もお元気な様子で、嬉しい。「はじめてのハーブ」の著者。名著。 T